

## 理事長挨拶

ねばあらんどの7つのクラブ(新松戸・あかしあ・ひまわり・幸谷・小金・栗っ子・松飛台)は、112人の新1年生を迎え、総勢390人で2005年4月、3年目の春をスタートしました。

これに先立つ3月、各クラブごとに入所説明会&歓迎会を開催致しました。そこでお話しさせて頂いたことを再度お届け致します。

子どもに対して大人ができることは何でしょうか。私はいつも、ふたつのことを心がけています。保護者の方をお願いしたいことでもあります。

一つは、子どもが母の胎内からこの世に生まれ出でた時の、あの感動、喜び、感謝をいつも心の奥底に持ち続けること。いわば「無条件の愛」「存在そのものを愛おしむこと」です。

点数が高い・低い、何かができる・できないといったことだけで、子どもに〇×をつけなさい。一喜一憂しないでほしいのです。

ただし。大人自身も悩み多き存在ですから、「愛せない」ことで決して自分を責めたりしないで下さい。

もう一つは、「愛すること」と反するようですが「子どもの手を放すこと」。

子どもが失敗し、傷つき、心を悩ませる姿は、保護者にとっては身が切り裂かれるような思いがします。つい手をさしのべ、手助けし、失敗しないようにと先回りしたくなります。ハラハラ心配することに耐えられなくなります。

誰が誰の人生をどうやって歩いていくのでしょうか。子どもの人生の主役は、子ども自身だということを忘れないで下さい。

「子どもを信じてその手を放す」ことが、大人の役割だと私は思うのです。

「愛すること」と「手を放すこと」。バランスを取るのは決して簡単ではありません。崩れてしまうことも多々あるでしょう。

そんな時、「大人同士もつながる」ことが大きな力、支え、励みになります。子どもに関わる大人は、保護者だけではありません。同じ時期・同じ地域で同じ世代の子どもを育てる保護者同士、そして学童の職員、地域の方々があります。時には甘え、愚痴を語り、励まし合い、共に子育てしていきましょう。

\*\*\*\*\*

## 職員配置

クラブ名	職員	パート職員
本部	百田	大越・谷口
新松戸	佐野・山崎	☆松田・北橋・相原・定盛・佐々木・藤原・平野
あかしあ	竹中・大月	麻生・橋田・三山・高橋(悦)・仲田・塚崎
ひまわり	糸川・濱田	黒田・伊藤・針谷・島田
幸谷	山口・駒野	岡本・山寺・堀沢・染野・山内
小金	滝本・川村	★菊地・吉野・杉山・湯浅・山本
栗っ子	湯浅・角田	三浦・★斉藤・瀬川・鎌田・湯澤
松飛台	原・小川	渡辺(道)・西澤・小西・大川・★菊池・★齋藤

\*\*\*\*\*

## ベーカリー・パンコパンコ

パンコパンコさんは、いつも子ども達にパンをプレゼントしてくれる、松戸市役所近くのパン屋さん。(TEL. 047-367-4209、根本393-57、市役所本館正面に向かい、左横の階段を下りたところ。右図→印)

ここは一見普通の



パン屋さん、実は宮崎駿ばりの不思議の世界。

パンコさんは、留学生のホストファミリーをしていて、年がら年中いろんな国のいろんな年代の人(含む日本!?)がつどって



あるじは、釜じいみみたいなけんさんと、湯ばあばみみたいなゆみさん。

お客さまの気持ちを大切にとの思いから、閉店まで定価販売し、残ったパンは泣く泣く廃棄していたそうです。「大好きな子ども達が、愛情込めて作ったパンを食べてくれたら、嬉しいよ。」と、04年秋から毎日のようにご寄付下さっています。

パンコさんからパンを頂くようになり、気付いたことがあります。それまで「おやつ」といえば、みんなで同じものを食べると思いこんでいました。頂くパンは、味も大きさも数もそれぞれ。それをどう分けるか。子どもにとっては大問題です。選ぶ時の真剣な目といったら!

苦手なひじきパンを目の前にして泣き出してしまう子もいます。好物のメロンパンをゲットした子が「全部はイヤだけど、半分だけなら交換してあげるよ。」すかさず指導員が「一緒にひじきパン食べてみようか。」と声をかけると、泣いていた子も「すっごくおいしい!」とにっこり。

そんな子ども達の様子を、けんさんもゆみさんも嬉しそうに聞いてくれます。子ども達がパンを通じて、「自分達のことを大切に思ってくれる誰か」を感じてくれることを願っています。

